

# 『全日本鍼灸学会雑誌』 投稿規定

(2019年5月1日改定)

## I. 編集方針について

1. 本誌は、日本鍼灸ならびに鍼灸関連領域のオリジナル論文で、他誌に未発表のもの、ならびにその予定のないものを掲載する。
2. 論文の種類は、原著、報告、短報、症例報告、臨床体験レポート、編集者への手紙、総説・ミニレビュー、解説などとする。

## II. 著作権

掲載論文の印刷、刊行、図表の引用および転載に関する許可の権限は全日本鍼灸学会に所属する。掲載論文（日本語および英語要旨を含む）のデータベース化、二次的使用、転載および複製機器による電子的/光学的複製の許諾権は全日本鍼灸学会に委託されたものとする。また、これらによる使用料は全日本鍼灸学会に帰属する。

## III. 倫理規定

### 1. 人を対象とする研究

(1) 論文は人を対象としたものではヘルシンキ宣言（1964年6月採択、2013年10月修正）、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（2014年12月22日公布）および臨床研究法（厚労、2017.4.14公布、2018.4.1施行）を遵守したものでなくてはならない。なお、臨床試験とは、研究協力者（患者）を介入群と比較群とに割り付けて行う前向き研究とする。臨床試験報告はCONSORT 声明2010（日本語訳: Jpn Pharmacol Ther（薬理と治療）. 2010; 38(11): 939-47）、鍼の臨床試験における介入の報告基準（STRICTA）の改訂 2010（日本語訳: 全日本鍼灸学会雑誌. 2013; 63(3): 186-204）に準拠することが望ましい。研究協力者（患者）には研究内容についてあらかじめ十分に説明した上で、自由意志に基づき文書により同意を得ることとする。所属機関等の倫理委員会の承認を得ている旨を記載する。

(2) 臨床試験報告は、公的な「臨床試験登録機関」（UMIN 臨床試験登録システム等）に事前登録する。ただし、試行的研究においてはこれを免除する。

2. 動物を対象とした研究は、所属機関等の倫理委員会の承認を得たものでなければならない。実施にあたっては、動物愛護の立場から実験計画を立て、全実験期間を通じて適切な飼養管理や処置を行う必要がある。

以上、該当する研究論文においては、上記のことを本文の「対象と方法」に記載するものとする。

## IV. 利益相反

全ての著者は利益相反状態の有無を論文末尾、謝辞または引用文献の前に記述し開示する。

例 1) 利益相反状態を有する場合：〇〇は本論文に関連して△△株式会社より研究費を受けている。  
その他の著者は開示すべき利益相反はない。

例 2) 利益相反状態を有していない場合：全ての著者は開示すべき利益相反はない。

著者全員は、投稿内容に関連して、投稿時の前年1年間の開示すべき利益相反（COI）状態を投稿時に提出すること。様式2-1（COI自己申告書）を学会HP（<http://www.jsam.jp/>）よりダウンロードし、各著者のCOI状態をまとめて投稿責任者（責任著者）が本部事務局に郵送する。なお、封筒にはCOI自己申告書であることを朱書きする。

## V. 投稿論文

### 1. 投稿（著者）資格

著者の資格は医学雑誌編集者国際委員会（ICMJE）の勧告に準じ、以下の4項目全てを満たすものとする（ICMJEのURL: <http://www.icmje.org/>）。

- (1) 研究の構想もしくはデザインについて、または研究データの入手、分析、もしくは解釈について実質的な貢献をする。
- (2) 原稿の起草または重要な知的内容に関わる批判的な推敲に関与する。
- (3) 出版原稿の最終確認をする。
- (4) 研究のいかなる部分についても、正確性あるいは公正性に関する疑問が適切に調査され、解決されるようにし、研究のすべての側面について説明責任があることに同意する。

上記の基準のすべてを満たさない貢献者は、謝辞にて個人を列挙するか、あるいはグループとして示し、それぞれの寄与内容を具体的に記す。

投稿者は本会正会員・賛助会員・名誉会員に限定する。共著の場合は、筆頭著者および責任著者は会員であることを要する。ただし、論文作成に指導的な立場で関わったと認められる者については、非会員共同執筆者として全著者の過半数もしくは2名を超えない範囲で認める。

### 2. 誓約書・著作権委譲承諾書

- (1) 投稿論文が二重投稿でないこと、ならびに著作権を学会に委譲することを誓約した「誓約書・著作権委譲承諾書」に筆頭著者または責任著者が署名する。
- (2) 誓約書・著作権委譲承諾書の署名は一人であるが、共著者がある場合は、筆頭著者または責任著者の署名をもって全員が承諾したものとする。

### 3. 掲載の決定方法

投稿論文（原著・報告・短報・症例報告・臨床体験レポート）は複数の専門家による査読を行い、編集委員会が掲載の採否および論文の種類を決定する。査読の結果、原稿の修正を求められることがある。掲載は、最終的に掲載の採否が決定した順とする。

### 4. カバーレターの添付

投稿の際には、投稿する研究論文や臨床報告の背景、意義などについて簡潔にまとめたカバーレターをつける。カバーレターには、氏名及び所属に関する情報は記載しないこと。

### 5. 論文のまとめ方

論文のまとめ方は、

- (1) 緒言（Introduction）
- (2) 対象と方法（Material and Method）
- (3) 結果（Result）
- (4) 考察（Discussion）
- (5) 結論（Conclusion）
- (6) 謝辞（Acknowledgment）
- (7) 利益相反（Conflict of interest）

## (8) 文献 (References)

## (9) 図表の説明 (Description of figures & tables)

の項目に基本的に従い、わかりやすくまとめる。それぞれの項目の内容については、十分に意を尽くす必要があるが、臨床試験報告（特に、ランダム化比較試験）の場合は、CONSORT声明2010（前述）、STRICTAの改定2010（前述）に準拠すること。

統計学的手法は、報告された結果を検証できるよう詳細に記述する。可能であれば、所見を定量化し、測定誤差または不確実性を表す適切な指標（信頼区間など）とともに提示する。P値などは、エフェクト・サイズに関する重要な情報を与えないため、このような統計学的仮説検定のみに依拠することは避ける。また、使用したソフトウェアを明記する。

## 6. 原著、報告

(1) 原稿は投稿規定に従い、体裁の整った完全なものではない。

### (2) 執筆要項

#### 1) 投稿の仕方

電子投稿システムの規定に従い投稿すること。

#### 2) 投稿の電子投稿で留意する点

① 著者、共著者は必ず事前に電子投稿システムのユーザー登録をすること。

② カバーレターには、著者、共著者の氏名・所属を記載しないこと。

③ 謝辞は、最終投稿時に追記すること。

④ 図表については、できるだけコンパクトなものとする。原著および報告では、タイトル、図表とその説明ともに英語または日本語のどちらかで記載し、混在はさせないこと。本文中に最初に引用された順番に図と表を別々に通し番号を付け、文献の後に「図表の説明」として、番号順にその説明を記すこと。

#### 3) 字数

原著および報告は、本文はV. 投稿規定の5(1)から(8)を含めて9,000字以内（スペースは含めない）、図表はあわせて8点以内（刷り上がり8頁まで無料）とする。

#### 4) キーワード

タイトル、要旨に含まれる語から5個以内で選定し、日本語と英語で記載する。

#### 5) 日本語要旨

800字以内の構造化抄録（structured abstract）とし、目的・対象と方法・結果・結論の順に構造化し簡潔にまとめる。ただし、臨床試験の場合は、目的、研究デザイン、セッティング、参加者、介入、主要なアウトカム評価項目、主な結果、結論の順にまとめる。

#### 6) 英語要旨

論文タイトルは第1語の頭文字のみ大文字とする。要旨は400 words 以内の構造化抄録（structured abstract）とし、Introduction・Material and Method・Result・Conclusionの順で構造化して記載する。英語要旨については、投稿前にnative speakerによる文章表現や字句の校閲を受けること。

#### 7) 文章表記

① 原稿は「横書き」、「新かな遣い」を用い、正確な句読点をつける。外国語、外国人名、地名、薬品名は原語のまま用いる。しかし、一般に日本語化している外国語は、カタカナを用いてもよい。数字は半角で表記する。

② 度量衡の単位は、mm、cm、ml、dl、l、ng、 $\mu$ g、mg、g、kgなどの国際単位系を用いる。年号は西暦で統一する。

③鍼の長さ、太さ、材質は、学会の規定に従って明記する。(医療用鍼の品質規格-毫鍼の鍼体径と鍼体長-. 全日鍼灸会誌. 1986; 36(4): 305-7.)

例) 銀鍼の寸3の2番→ 40ミリ・20号、銀鍼

④経穴名の表記・部位は、『WHO/WPRO 標準経穴部位-日本語公式版-』ならびに『WHO STANDARD ACUPUNCTURE POINT LOCATIONS IN THE WESTERN PACIFIC REGION』、ローマ字の表記は、『STANDARD ACUPUNCTURE NOMENCLATURE Second Edition』ならびに『標準経穴学』に準拠し、以下のように記載する。また、論文中の経穴部位が上記成書と異なる場合は、その旨を明記する。

例) 和文初出では、足三里 (ST36) とし、以後は足三里とする。

英文初出では、ST36 (Zusanli, Ashi no Sanri) とし、以後はST36とする。

⑤数字の用い方:数字の用い方は以下の順とする。

I. II. III. ...

1. 2. 3....

(1) (2) (3)...

1) 2) 3) ...

① ② ③...

⑥論文タイトルおよび要旨では日本語、英語にかかわらず略語を用いてはならない。

⑦論文中に繰り返し使用される語句については略語を用いてもよいが、初出の時は必ず?正式名称をスペルアウトして記載する。さらにカッコ内に略語を用いることを明記する。

例) 日常生活動作 (activity of daily living; 以下 ADLと略記)...

⑧有意確率の表記は、大文字のイタリック体 ‘P’ で表記する。有意差なし (not significant) を略記する場合は、‘n.s.’ とする。

⑨文中の複数引用文献の記載方法については以下の通りとする。

連続した2文献の場合、上付き1/4で、例えば「……<sup>13, 14)</sup>」

連続した3文献以上の場合、上付き1/4で、例えば「……<sup>13-16)</sup>」

上記が混在している場合、上付き1/4で、例えば「……<sup>13-15), 19)</sup>」

## 8) 文献の記載の仕方

文献数は主要なもの30件以内とし、本文引用順に本文と引用文献の頭に通し番号を付して並べる。ただし、システムティックレビュー等で30件を超える合理的理由がある場合は編集委員会が個別に許可する (カバーレターに理由と審査依頼を明記すること)。

文献の書式は、いわゆるバンクーバー・スタイル (the Vancouver style) に従うものとし、以下を参考に記載する (バンクーバー・スタイルについての詳細は、International Committee of Medical Journal Editors. Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals. 1991. Feb; 324 (6): 424-8. 参照)。

①論文・著者数; 文献のタイトルは、副題も含めてフルタイトルを記す。引用文献の著者や編集者は、6名まではすべて記載し、それ以上の場合は ‘,’ をつけて「他」、または「et al.」とする。

②雑誌; 著者名. 論文タイトル. 雑誌名 (類以の誌名のあるときは発行地). 西暦発行年; 巻(号): 起始頁-最終頁 (上の桁で繰り返す数字は省略し、その際は半角で表記). ただし、巻数の記載を欠く雑誌を引用する場合には、巻数の代わりに通し号数または発行年月日を記載する。句読点や括弧は全て全角で表記する。

例1) 山本太郎, 山田花子. 鍼灸臨床と今後の課題. 世界鍼灸学会雑誌. 1998; 60(1): 123-30.

例2) Yamamoto T, Yamada H. Effects of acupuncture therapy on chronic pain. J Jpn Soc Acupunct. 1986; 35(3): 21-8.

③書籍; 著者名. 書名. 版数. 発行地. 発行所名. 西暦発行年: 起始頁-最終頁.

例) 山田太郎. 鍼灸の基礎と臨床. 第3版. 東京. 鍼灸科学社. 1999: 34-46.

④監修者、編者のある書籍;

例1) 山田花子. 鍼灸学概論. 田中一雄, 川口 修 (編). 鍼灸大辞典. 東京. 鍼灸科学社. 2000: 125-60.

例2) Yamamoto T, Yamada H. Effects of acupuncture therapy on chronic pain. In: Tanaka K(ed). Science of Acupuncture. Tokyo. East-Airt. 2000: 1-10.

⑤古文獻; 江戸期以前の図書については、原則として、編著者名. 書名. 成立年. 刊行年 (もしくは抄写年). 発行者. 発行地. および該当丁 (葉) 数 (表・裏) あるいは、頁数もしくは項目名を記し、稀覯本については所蔵者名も明記する。

例) 吉益東洞. 薬徴. 1828. 1980. 財団法人 漢方医学研究所. 東京: 145-50.

⑥その他; 現代中国の文献の場合は、日本で使用されている漢字に直して記載する。

⑦引用を避けるもの; 抄録、私信、未刊行物。ただし、受理はされているが、また、掲載されていない論文は、雑誌名を記して「印刷中」とする。

⑧雑誌名の略記; 雑誌名は原則略記とする。なお、詳細については、以下から検索可能である。

和文雑誌: 医学中央雑誌ホームページ上の収録誌検索 (<https://www.jamas.or.jp/>)

英文雑誌: National Library of Medicine ホームページ上の Journal Browser (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/jrbrowser.cgi>)

9) 著者校正は1回のみとする。

## 7. 短報

(1) 本欄は、研究および報告に限る。独創性の高い速報、もしくは、予報的な報告を目的とする。本欄に掲載された後に、同じ内容の原著は本誌では掲載しない。

(2) 査読を経て、編集委員会で採否を決める。

(3) 執筆要領は次の通りとする。

1) 本文・文献3,000字以内。図表はあわせて2点以内 (刷り上がり4頁まで無料) とする。

2) 論文タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

3) 日本語要旨は600字以内、英語要旨は300 words以内とする。

4) キーワードは3個以内で選定し、日本語と英語で記載する。

5) 他は原著に準じる。

## 8. 症例報告、臨床体験レポート

(1) 本欄には、日々の鍼灸臨床の場での鍼灸の効果に対する評価を工夫しわかりやすくまとめたもの、あるいは鍼灸臨床上の貴重な体験や今後の臨床に活かされる内容の論文を掲載する。症例報告は医療機関で病名が確定しているものとする。本欄に掲載された後に、同じ内容の原著や報告は本誌では掲載しない。

(2) 査読を経て、編集委員会で採否を決める。

(3) 執筆要項は次の通りとする。

1) 本文・文献6,000字以内。図表はあわせて6点以内 (刷り上がり5頁まで無料) とする。

2) 論文タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。

- 3) 日本語要旨は800字以内、英語要旨は400words以内とする。
- 4) キーワードは5個以内で選定し、日本語と英語で記載する。
- 5) 他は原著に準じる。

#### 9. 編集者への手紙

- (1) 本欄は、日常の診察・研究活動上得られたヒント、発見、反省点、盲点など、また、本誌に掲載された論文に対する各種の意見（追加、討議、意見、希望など）を書簡形式で書いたものとする。
- (2) 査読はないが、編集委員会で校閲を行い、採否を決める。
- (3) 執筆要項は次の通りとする。
  - 1) 2,000字以内（刷り上がり2頁まで無料）とし、写真・図表の使用は認めない。
  - 2) タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。
  - 3) 日本語要旨・英語要旨は不要である。
  - 4) キーワードは3語以内で選定し、日本語と英語で記載する。
  - 5) 他は原著に準じる。

#### 10. 英文による投稿

本誌は日本語論文のみを掲載する。英文論文は、オンライン英文雑誌Japanese Acupuncture and Moxibustion (JAM) で受け付けている。投稿規定は原則、全日本鍼灸学会雑誌と同様であるが、詳細は当学会ホームページ (<http://jsam.jp/>) で確認すること。投稿は、電子投稿システムの規定に従い行うこと。

## VI. 依頼論文

### 1. 総説・ミニレビュー

- (1) 本欄は、鍼灸ならびに鍼灸関連の問題について、最近における内外の知見を総説的に記述したものとす。著者の原著報告であってはならない。ただし、著者の業績を中心に述べることは差しつかえない。
- (2) ミニレビューは簡潔で短い総説とする。
- (3) 執筆要項は次の通りとする。
  - 1) 本文・文献は16,000字以内、図表はあわせて8点以内（刷り上がり15頁まで無料）とする。
  - 2) 論文タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。
  - 3) 日本語要旨は800字以内、英語要旨は400words以内とする。
  - 4) キーワードは8語以内で選定し、日本語と英語で記載する。
  - 5) 他は原著に準じる。
  - 6) ミニレビューは、本文は4,500字以内、和文抄録は300字以内、英文抄録は200words以内、キーワードは5個以内、引用文献は30件以内、図・表は計4点以内とする。

### 2. 解説

- (1) 本欄は、鍼灸ならびに鍼灸関連領域の問題について、最近における内外の知見を解説的に、わかりやすく記述したものとす。
- (2) 執筆要項は次の通りとする。
  - 1) 本文・文献は10,000字以内、図表はあわせて4点以内（刷り上がり10頁まで無料）とする。
  - 2) タイトル・投稿者名・所属は、和英併記のこと。
  - 3) 日本語要旨は800字以内、英語要旨は400words以内とする。
  - 4) キーワードは8語以内で選定し、日本語と英語で選定すること。



5)他は原著に準じる。

### 3. 巻頭言

- (1)本欄は、原則として理事等役員が執筆するが、その他は編集委員会で決定する。
- (2)学会のあり方・将来について等、学会の基本的な姿勢を提言する。
- (3)原則として、1,600字（刷り上がり1頁）以内とする。

### 4. 紹介

- (1)図書や書籍の紹介
- (2)鍼灸学関係の研究施設等の紹介
- (3)その他、本誌に掲載すべき論文と編集委員会が認めたもので、20,000字を目安に原稿区分・体裁の全てを編集委員会が決定する（古典研究等の人文学系論文を対象とする）。
- (4)事前に書簡またはメールで編集委員会に審査を申し出ること。

### 5. 会頭講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・セミナー

- (1)本欄は、いずれも学術大会の際に行われた講演やシンポジウムを学会誌に再録するものである。依頼原稿を原則とする。
- (2)会頭講演・特別講演・教育講演の執筆要項は次の通りとする。
  - 1)本文・文献は16,000字以内、図表はあわせて8点以内（刷り上がり15頁まで無料）とする。
  - 2)論文タイトル・執筆者名・所属は、和英併記のこと。
  - 3)日本語要旨は800字以内、英語要旨は400 words以内とする。
  - 4)8個以内のキーワードを日本語と英語で選定すること。
  - 5)他は原著論文に準じる。
- (3)シンポジウム・セミナーの執筆要項は次の通りとする。（著者毎ではなく全体での容量を示す。従って、コーディネーターを中心に各シンポジウム間で調整のこと）
  - 1)本文・文献は15,000字以内、写真・図・表は計8点以内（刷り上がり15頁まで無料）とする。
  - 2)シンポジウム・セミナーのタイトル・執筆者名・所属は和英併記のこと。
  - 3)シンポジウム要旨（司会のまとめ）は日本語1,300字以内、英語800 words以内とする。
  - 4)8個以内のキーワードを日本語と英語で選定すること。
  - 5)他は原著論文に準じる。
- (4)会頭講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・セミナー等の執筆要項は、学術大会時の発表形式等により変更されることがある。

## Ⅶ. 会報

### 1. 理事会・評議員会報告

- (1)主に、本部理事会から会員への活動報告
- (2)評議員会等の決定事項の報告

### 2. 学会各部活動報告

- (1)学会の各部の活動状況の報告
- (2)学会員の動態報告
- (3)その他

### 3. 支部集会、支部会議

### 4. 関連学会報告

- (1) 全日本鍼灸学会に関連する学会の開催通知・活動報告等を載せる。
- (2) 原則として、1,600字（刷り上がり1頁）以内とする。刷り上がり1頁以内であれば、図表等も掲載可とする。

#### VIII. その他

1. 本欄は、会員が興味を持ち、会員にとって有益な内容、編集委員会が学会誌として必要と考える以下の内容のものを掲載する。
  - (1) ワークショップ等の学会として取り組んでいる活動の報告
  - (2) 学会、理事会、評議員会、会員等に対する意見、要望等
  - (3) 鍼灸界に対する意見、論考、主張等
  - (4) 上記に当てはまらないが、学会誌としてふさわしい原稿
2. 本文は1,600字以内とする。
3. 原則として、図・表は認めない。
4. その他の原稿の投稿に関する詳細は、編集委員会で決定する。

#### IX. 掲載料および図版作成・別刷作製費

1. 掲載が無料である頁数は、論文の区分別の刷り上がり頁数で決められている。それを超過した場合は、超過料金を実費で徴収する。また、特殊な図・写真についても点数に関係なく実費を請求する（通常の印刷費以外に費用を必要とする場合を全て含む）。図表は、原則として、そのまま掲載できる見やすいものとする。
2. 別刷は校正時に100部単位で希望数を受け付ける。
3. 費用は以下のように計算する。
  - (1) 頁超過料金：1頁につき15,000円。
  - (2) 図版作成費：カラー印刷、図版作成・修正を要したものは実費を請求する。
  - (3) 別刷作製費：別刷は100部単位で作製し、実費を徴収する。
  - (4) 依頼原稿については、100部を著者に無料で謹呈する。ただし、100部を越えて希望する場合は実費を徴収する。
  - (5) 詳細は編集委員会に問い合わせること。

#### 【問い合わせ先】

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-55-10 学園ビル10階  
全日本鍼灸学会事務局編集部宛  
TEL：03-6276-6751 FAX：03-6276-6752 E-mail: honbu@jsam.jp